



オスラーにはなれないけれど、 オスラーの心から学ぶ

評者 | 中西重清 中西内科 院長

私が本書の書評を書くにふさわしい人間かどうかわからないが、開業医の立場から解説する。ウィリアム・オスラーの『平静の心—オスラー博士講演集 (Aequanimitas)』(医学書院、2003) は名著であるが、難解である。精読したいと思うが、数ページで挫折してしまうのは私だけではないかもしれない。そこで、3人の“オスリアン”(オスラー伝道医師)が、わかりやすく実例を交えて解説し、臨床現場で平易に活用できる1冊としたのが、『こんなときオスラー『平静の心』を求めて』である。

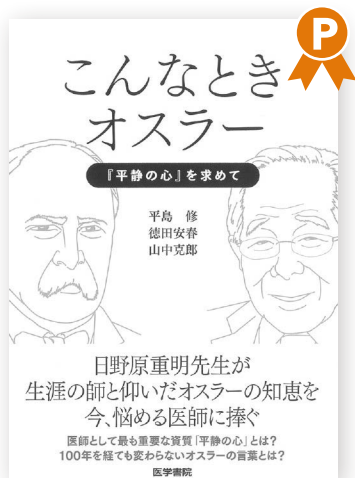
8章(「臨床上の葛藤—医師と患者のはざまで」「日々の勉強の中で」「教師と生徒」「進むべき道への迷い」「理想の医師像を求めて」「人生と平和と愛と」「付録」「オスラーの生涯と言葉」)で構成され、いつでも、どこからでも、気になったところから読める。臨床に悩んだ時に探しやすい構成になっている。この厚さなら軽いで寝転んでも読めるし、急患が来たら読み止めることもできる。もうあなたは、『平静の心』を仮眠用の枕にしくなくてもよいのである。なんて斬新な試みだろう。

「どんなときもオスラー」

その中身は、オスラーのクリニカルパールが満載である。教養を身につけ、医師としてだけでなく、人として成長せよ。病気が相手ではなく、人が相手である。医療は病になっている人を診ているのであって、病気を治すのが先ではない。可能であれば、医学教育にも携わりなさい。著者の心の豊かさと深さ、厳しさが随所に垣間見える。オスラーにはなれないけれど、オスラーの心を知り、わが身の姿勢を正すことはできそうである。

『こんなときオスラー』というタイトルではあるが、いつも側に置いてほしい、「どんなときもオスラー」が一緒にいて、あなたに語りかけてくるだろう。ひょっとすると、あなたの医師人生を変える1冊かもしれない。

G



こんなときオスラー 『平静の心』を求めて

平島 修、徳田安春、
山中克郎=著

定価：本体 2,400 円＋税
A5・200 頁／医学書院／2019
[ISBN978-4-260-03692-4]